

第5回地震等災害被害予測調査検討有識者会議での主な意見への対応

番号	発言者	内容	項目	対応
1	柿沼委員	堤防が越流したときに破堤するという条件もp3に追記すべきである。	津波	報告書にて対応する。
2	柿沼委員	鹿児島湾内の水位は発災後6時間で落ち着いていたということだが、p28の志布志市などは6時間のときに最大水位が到達しているの、6時間の時点ではまだ落ち着いていないのではと思うがどうか。	津波	6時間後に最大水位が到達しているが、最大水位は、初期潮位とほとんど変わらない結果となっており、水位変動は落ち着いていると考えている。
3	柿沼委員	浸水高1mの到達時間などが示されているが、1m未満であっても危険であることに留意し、注意喚起してほしい。また、数分で大きな津波が到達するような地域では、垂直避難ができるような環境にしておくことが重要である。	津波	引き続き、防災意識の普及啓発に取り組むとともに、市町村の避難計画の実効性の確保に取り組んでまいりたい。
4	柿沼委員	桜島北方沖の海底噴火などは到達時間が短い。湾内で起きたものに対して地震が感知されない場合、現在は無防備な状態になっている。潮位の観測システムがあると良い。	津波	火山活動については24時間体制で監視している。海底噴火の場合は錦江湾内でも火山活動が盛んになると考えられ、監視上必要と判断した場合には臨時観測点を設置するなどの対応をとる。（気象台）
5	酒匂委員	地盤の沈降量の分のみを考慮している旨をp3に追記すべきである。	津波	報告書にて対応する。
6	柿沼委員	要救助者数において奄美群島太平洋沖の地震の数が多くなっているが、これは高いところに逃げられる人の数が多いということか。	被害想定	その通りである。 各市町村から提供を受けた津波避難施設の位置と収容人数をGISデータ化して算定した。
7	酒匂委員	桜島の海底噴火は地震ではなく、噴火による津波のみであるため、記載を修正してほしい。また、津波以外の地震動などは想定していないことを追記してほしい。	被害想定	修正する。
8	酒匂委員・中道委員	複合災害において「地震に連動して火山噴火」と記載されているが、因果関係は逆なのではないか。兵庫県などでは噴火と地震が同じ時間に発生した場合として整理しているため、そのような取り扱いが良いのではないか。	被害想定	「火山噴火に伴い揺れが発生する」旨に修正した。 ※参考資料にて報告
9	入江委員・廣井委員	資料3は、地震災害発生時の被害要因の相関を考えるうえで、非常に重要な資料であるため、公開を前提に検討してほしい。なお、2段目の「ライフラインの被害」は、1段目の救助救援、避難者などにも大きな影響を与えるので、上向きの矢印を検討してほしい。	被害想定	公開を前提に整理を行う。ライフライン→避難者となる向きの矢印を追加した。 ※参考資料にて報告
10	廣井委員	死傷者数について、前回調査と比較すると、火災の被害が減少している要因と、自力脱出困難者が増えている要因を教えてください。	被害想定	火災による死傷者数が減少している要因は、火災による焼失棟数が減少していることである。火災による焼失棟数が減少している要因は、手法の差によるものである。出火率を最新のデータとしたことで出火件数が減少していること、延焼シミュレーションの計算回数を増やし、収束するまで計算できたことが影響していると考ええる。自力脱出困難者については、揺れによる全壊棟数の増加によるものとする。
11	入江委員	物資の需要数について、飲料水の需要量が夏・冬でほぼ変化がないが、今回の熊本地震の猛暑の被災を見ると、夏においては多めに見込んだ方が良いのではないかと思います。	被害想定	シナリオや報告書において、「夏場は平時より多くの飲料水が必要になる可能性がある」等の注釈を入れることで対応したいと考えている。

番号	発言者	内容	項目	対応
12	中道委員	避難者数について、時間経過とともに徐々に増加しており、特に避難所外の数が増えているのはなぜか。	被害 想定	ライフライン停止時生活困窮度は被災1日後時点では0と設定されており、1週間後から1か月後にかけて高くなっている。ただし、断水の解消も同時に進むため、結果として被災1週間後の避難者数が最大となる結果となっている。避難所外については、発災直後は避難所に集まるが、長期化するにつれて親戚の自宅や宿泊施設に流れていく意向を反映しているためである。
13	廣井委員	算定結果に地理的な要素は含まれているか。P20の地震ごとのまとめについては、どこでどんな被害が発生するのかということがわかると、その後のシナリオ等の検討にも活かせると思う。	被害 想定	項目によるが、基本的には市町村ごとに算定を行っている。報告書には被害想定結果をマップ表示したものなども掲載し、地理的な情報を追記する。
14	奥村委員	※委員会後メールにて 災害関連死の原単位は見直した方が良い。	被害 想定	奥村先生からご提供いただいたExcelの関係式を用いて見直しを行った。 ※資料1にて報告
15	奥村委員	※委員会後メールにて 人流データを用いた特異日の設定については、参考ケースとして取り扱うことが良いと思う。市町村ごとの増加人数について確認すべきである。	被害 想定	特異日の扱いについては、市町村ごとの増減（比率）に着目し平常時との差を確認した。 ※参考資料にて報告
16	地頭蘭委員	※委員会後メールにて 資料3の記載について修正案を共有した。	被害 想定	いただいた内容をもとに修正した。 ※参考資料にて報告